琉球大学学術リポジトリ

健康相談活動に必要な資質に関する研究：沖縄県における現職養護教諭の実践及び研修を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2018-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 髙宮城, 辰代, Takamiyagi, Tatsuyo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41625

健康相談活動に必要な資質に関する研究

―沖縄県における現職養護教諭の実践及び研修を通して―

A Study on Qualifications for Health Consultation Activity
On the Practice and Training Program of Yogo Teachers in Okinawa

高宮城辰代
Tatsuyo TAKAMIYAGI

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

1．はじめに

近年，子どもの健康問題が複雑化・深刻化している状況から，保健室を訪れる子どもの健康問題に対し，心身両面への対応が養護教諭に求められている。これが，養護教諭の「健康相談活動」として新たな役割となった。

健康相談活動は，1997 年 9 月の保健体育審議会答申（以下，保体審答申〈1997〉とする）にて，新たな養護教諭の役割として提言された。今日の保健室来室状況を踏まえ，2008 年の中央教育審議会答申（以下，中教審答申〈2008〉とする）においても，健康相談活動がますます重要になってきていることが述べられている。

養護教諭の行う健康相談活動は，日常の実践の一環として自然に行われていることが多く，さまざまな問題や悩みを抱えた子どもが保健室に来室する。それに対して養護教諭は，相談内容や子ども個人の状況や実態にあわせた対応をしている。力丸ら（2012）も「今日に至るまで『健康相談活動』は，学校現場における養護教諭の日々の実践をはじめ，養護教諭養成や現職教育等の関係者の創意工夫によって充実しつつある」と述べている。また，複雑化している社会情勢から，子どもが抱える問題は多様化しており，養護教諭の果たす役割は学校現場において重要な位置を占めているといえる。それゆえ養護教諭養成段階での健康相談活動に関する工夫や，教育現場における研修の充実は必須であると考える。

一方，沖縄県の学校における子どもの心身の健康問題の背景には，貧困の問題が根底にあることが考えられる。そのことからも，前述した養護教諭養成課程での健康相談活動に関する工夫や教育現場における研修は極めて重要だといえよう。

本研究では，答申や学会で示された養護教諭に求められる資質と，学校現場で実践されている健康相談活動の現状を踏まえ，沖縄県における養護教諭の健康相談活動の実践の分析と，それに関するインタビューから，養護教諭の健康相談活動に必要な資質を明らかにしていく。

さらに，県内の養護教諭養成大学のシラバスや養護教諭の研修内容等についても検討していくことにした。

２．研究目的

健康相談活動の基礎的事項をおさえた上で，現職養護教諭の実践とインタビュー及び事例の検討，県内の養護教諭養成大学のシラバスの分析から，沖縄県の健康相談活動において，養護教諭に必要な資質を明確にし，その向上を図る上での研修等の創意工夫について研究していく。

３．研究内容と方法

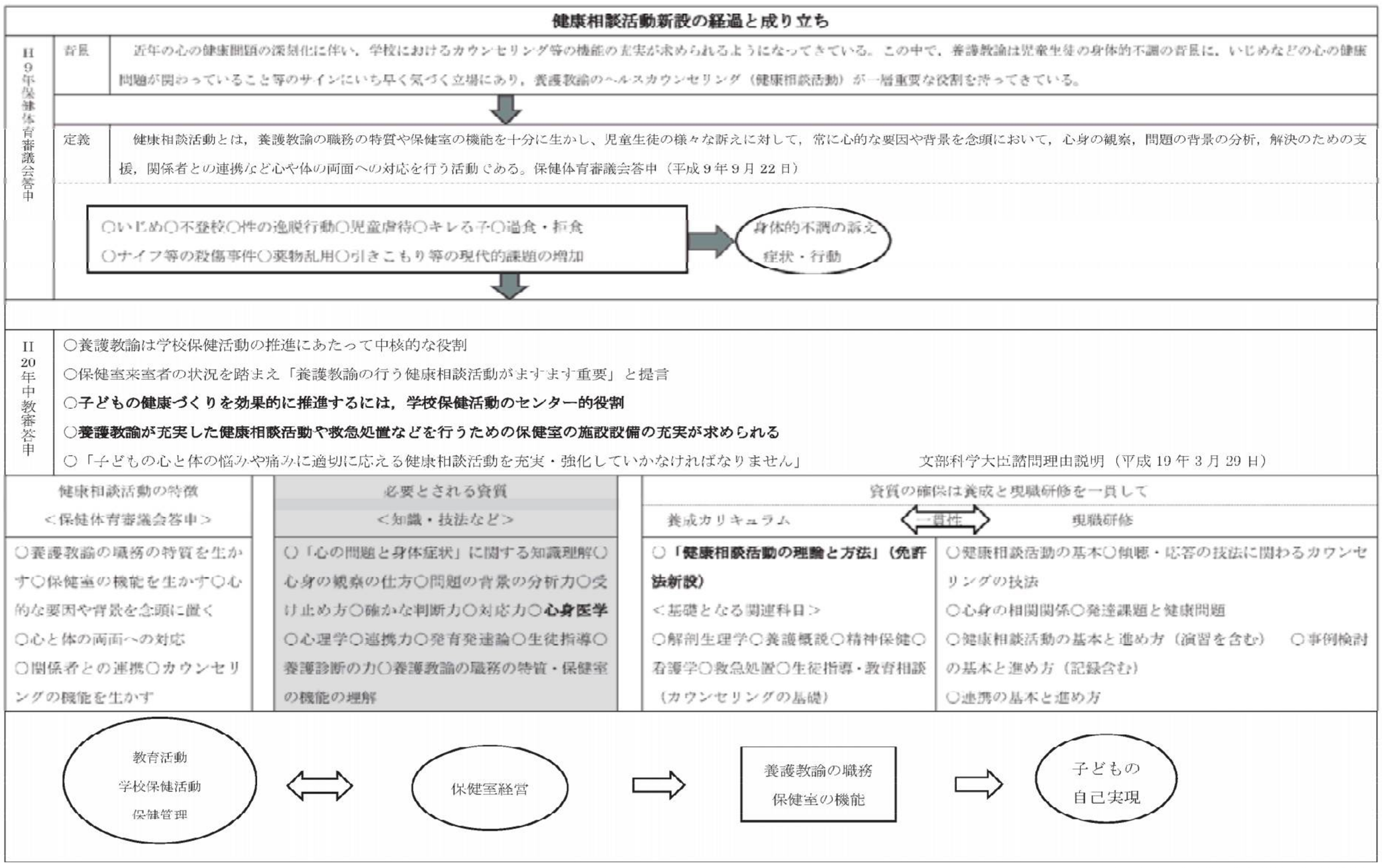
・健康相談活動の特徴を踏まえた上で，健康相談活動の実践に求められる養護教諭の資質について分析する
・養護教諭の実際の健康相談活動を観察し，必要な資質を分析する
・現職養護教諭へのインタビューから，健康相談活動時に必要な資質，困った時の対処法，資質の向上に必要なことについて分析する
・養護教諭養成大学の健康相談活動に関するシラバスの分析をする
・事例を通して，健康相談活動について必要な資質の分析をする

４．先行研究と本研究との関連

（１）健康相談活動とは

表１は，三木ら（2011）が示した健康相談活動の経過と成り立ちである。必要とされる健康相談活動の資質には「心身医学，問題に関する分析，養護教諭の職務の特質理解・保健室機能の理解」が知識・技法として提示されている。

表１　健康相談活動の経過と成り立ち



三木とみ子『養護概説』より抜粋

三木ら（2011）が提唱した健康相談活動に関するこれまでの経過や答申を参照し，本研究では「問題や悩みを抱えている児童生徒に対し，心身両面から対応できる養護教諭の役割」として健康相談活動を捉えることとした。

（２）健康相談活動に必要な資質とは

答申や学会で発表・提示された養護教諭の資質について表２に示した。

表２　養護教諭の資質比較

保体審答申（1997）	中教審答申（2008）	中教審答申（2012）	日本養護教諭教育学会
＊「心の健康問題と身体症状」に関する知識理解 ＊観察の仕方や受け止め方 ＊確かな判断力 ＊コーディネート力 ＊対応力（カウンセリング能力） ＊健康に関する現代的課題の解決のために個人又は集団の児童生徒の情報収集 ＊健康課題をとらえる力量 ＊問題解決のための指導力 ＊企画力＊実行力＊調整力	＊子どもの現代的な健康課題の対応に当たり、学級担任等、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラーなど学校内における連携、また医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携を推進することが必要となっている中、養護教諭はコーディネーターの役割を担う必要がある	＊教職に対する責任感，探求力 ＊教職全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感，教育的愛情） ＊専門職としての高度な知識・技術 ＊総合的な人間力（豊かな人間性や社会性，コミュニケーション能力，同僚とチームで対応する力，地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）	＊保健，医療，心理，福祉，教育，学校保健などの基盤となる総合的知識 ＊健康課題を発見・解決・予防するための知識・技術 ＊連携のための知識・技術 ＊人間形成にかかわるための知識・技術 ＊研究のための知識・技術

表２は，協働して対応しなければならない資質である。具体的には連携・コーディネート力，心身医学的知識，健康問題の知識・発見・解決・予防（情報収集・処理能力，問題背景の分析力）が位置づけられている。このことから，これらの項目は健康相談活動には必須項目であると考える。

一方，沖縄県の児童生徒をめぐる社会環境は貧困の問題が根底にあることが考えられる。宮川（2015）は，貧困が心身や学業に影響し，ひいては意欲や希望の格差を生じさせていると述べている。つまり，沖縄県における健康相談活動では，貧困から生じる子どもの状況等を踏まえた実践が求められる。よって，子どもの心身両面から対応をしていくためには，情報収集，関係者及び専門機関との連携，子どもに寄り添うためのカウンセリング能力が養護教諭の資質として必要不可欠であると考える。

本研究では，表２から協働して対応できる項目及び沖縄県の現状を踏まえ，健康相談活動に必要な資質を，現職養護教諭と確認し，その資質を表３に示した。

表３　健康相談活動に必要な資質

a：心の問題と身体症状に関する知識理解	b：心と体の観察力	c：看護学的技術
d：発育発達課題の理解	e：心身医学的知識	f：問題背景要因の分析力
g：情報収集・処理能力	h：支援のための対応力（カウンセリング能力）	
i：生徒指導力	j：校内での連携（コーディネート力）	k：家庭との連携
l：専門機関との連携	m：コミュニケーション力	n：企画・運営力

５．結果と考察

（１）現職養護教諭の健康相談活動の観察から

表４，表５は二人の養護教諭の健康相談活動の実践に関して，表３（a：心の問題と身体症状に関する知識理解，b：心と体の観察力，c：看護学的技術…）を踏まえ，必要される資質について分析検討を行ったものである。

表４　現職養護教諭の実践

経過	養護教諭の対応	連携	筆者の分析（必要とされる資質）
頭が痛いと訴え来室	Ａ：「頭が痛いです」 養：「熱はないよ。次の時間頑張れる。次何の時間かな？」 Ａ：「算数」 養：「先生が一緒に教室まで行くから戻ってみようか」 ・担任が保健室の前を通る時に、子どもの情報を伝える ・管理者へ報告	担任 管理者	・バイタルサイン正常範囲内，全身状態は問題なさそうと判断。（表３のａ，ｂ，ｃ，ｅ） ・以前も頭痛で来室，算数の時間の前の休み時間であった。（表３のｆ，ｈ） ・算数が苦手？　（表３のｅ，ｆ） ・一緒に教室に戻り，教室での子どもの状態を観る必要がある。（表３のｇ，ｉ，問題解決に向けての実行力） ・担任へ情報提供。　（表３のｊ，問題解決に向けての実行力） ・管理者へ報告し校内連携につなげている。（表３のｊ，問題解決に向けての実行力）

表５　現職養護教諭の実践

経過	養護教諭の対応	連携	筆者の分析（必要とされる資質）
腹痛があり，ベッドで休みたいと訴え来室。休養させ再度問診を実施。	Ｂ：「お腹が痛い」 養：「お腹のどの辺がいたいの？」 Ｂ：「よくわからない」 養：「1時間休んでみる」 養：「今触っているけど痛いところある」 Ｂ：「ない」 養：「お腹は問題なさそうだけど。何かあったの？」 Ｂ：「○○から文句言われた」 養：「そうなんだ，担任は知ってるの」 養：「どうかな。教室に戻れそう」 Ｂ：「大丈夫」 養：「○○とは，話しできる」 ・担任にＢの状況と話し合いの必要性を報告	担任	・バイタルサイン正常範囲内，腹部触診にて問題なし。子どもの表情が硬いため，休養させ経過を観る。（表３のａ，ｂ，ｃ，ｅ） ・以前も友達とのトラブルで同じようなことがあったため，ベッドサイドで触診しながら，聞く必要がある。（表３のｆ，ｈ，個に応じた対応） ・担任へ報告し，問題解決が必要。　（表３のｊ） ・保健室来室カードを子どもに持たせ，担任等が子どもの状況を把握できるようにしている。　（表３のｊ）

２人の養護教諭は身体不調を訴え来室した子どもに，初期対応としてまず観察対応を行っている（表４，表５）。また，子どもの反応から，子どもが訴えたこととは何かが違うと瞬時に感じ取り，子どもの身体症状の訴えとバイタルサインの確認，身体的な手当（表３のａ，ｂ，ｃ，ｅ）を実践する。そして，これまでの背景（表３のｆ）と照らし合わせ器質的疾患ではないと判断している。さらに，判断し経過を見守るだけではなく，「熱はないよ。頑張れる。」「○○とは，話しできる」と問題解決に向けた生徒指導や，保健室来室カード等を用いて担任及び管理者に適宜報告し連携を図っていることがわかる。つまり，このような日常の何気ない子どもへの対応が健康相談活動だといえる。その実践には，子どもの話を傾聴する姿勢等の寄り添いと同時に，健康相談活動に必要とされる種々の資質が養護教諭に求められていることがわかる。したがって，健康相談活動を実践していくためには，養護教諭養成段階および現職養護教諭の研修において，表４，表５に挙げた資質の育成と向上が求められる。特に沖縄県においては問題が多岐にわたっているため，問題解決に向けての実行力（コーディネート力，ファシリテート力）も重要になる。

（２）現職養護教諭へのインタビューの検証

沖縄県における健康相談活動に必要とされる資質を探るため，養護教諭６名に半構造化インタビューを実施した。

表６は健康相談活動を進めるために必要な資質についての結果である。

表６　健康相談活動を進めるために必要な資質（知識・技法）とは何か

＊心身医学的知識（６人）	＊心と体の観察力（６人）	＊子どもの背景を捉え問題を分析する力（６人）	
＊家庭・校内の連携（６人）	＊対応力（カウンセリング能力）（２人）	＊養護診断力（１人）	
＊情報収集力（１人）	＊確かな判断力（１人）	＊看護学的技術（１人）	＊解決のための指導力（１人）

小学校・中学校・高等学校の養護教諭が，共通して健康相談活動に必要だとした資質は，心身医学的知識，心と体の観察力，子どもの背景を捉え問題を分析する力，家庭・校内の連携であった。しかし，その資質を担保するための研修会には，ほとんどが参加していない状況である。その理由として，多くの養護教諭が一人配置であること。また，県内の現職養護教諭研修会では，治療や手当てに関する内容が多く，健康相談活動に特化した研修はほとんど設定されていない現状である。これらのことから，健康相談活動についての評価や相談する体制が整備されていない状況下で，困難な事例に対して一人で抱え困っているケースが示唆された。

困難な事例の解決策としては，「①知り合いの養護教諭に相談②研修会後に雑談として相談③研修会に招いた講師に相談」との回答が多かった。したがって，学校現場での困り感に対応していく研修の内容や方法の工夫が必要である。

（３）養護教諭養成大学における健康相談活動の授業内容

健康相談活動に必要な資質について，養成段階でどのような内容で実施されているのか，県内の養護教諭養成課程を有する大学のシラバスを分析した（表 7）。

表７　琉球大学・名桜大学のシラバス比較

琉球大学			名桜大学		
科目名	授業内容	資質	科目名	授業内容	資質
カウンセリング論	＊学校で行われる“相談”特に養護教諭が行う“健康相談”の特徴 ＊カウンセリングとは，カウンセリングの基本的理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，養護教諭や看護師のためのカウンセリング技法１・２，臨床心理士によるカウンセリングの事例紹介，演習，さまざまな“相談”と心理カウンセリング，集団を対象にしたカウンセリング ＊臨床心理士（学校，スクールカウンセラー，医療，心理職）との連携	f，g h，i l	健康相談活動の理論と方法	＊養護教諭と健康相談，健康相談の概念と特質，健康相談の基礎と背景，子どものヘルスニーズ理解，健康相談の基礎 ＊カウンセリングの理論と技法（演習） ＊健康相談活動の進め方の実際①・②・実践例，養護教諭の役割と連携及び養護教諭の新たな役割，諸問題の捉え方と関わり方	f，g h，i j，l m，n
看護学	解剖学，生理学，精神保健，看護学	a，b c，d e	看護学	解剖学，生理学，精神保健，看護学	a，b c，d e

琉球大学では，カウンセリングを中心に履修していた。一方，名桜大学では健康相談活動に必要な資質についての内容を広く学んでいることがわかった。しかし，２人の養護教諭(10 年以上)がシラバスと実習のフィードバックについて，理論を実践に結びつけた内容については十分ではない(両大学)と述べている。このことから，実践力になるロールプレイや事例の検討などの項目は必要ではないかと考える。

（４）事例を通した健康相談活動についての分析

保健室に一人で頻回来室するＣについて分析することにした。Ｃは前年度からの実習において気になる子どもであり，健康相談活動が必要な対象として捉えていた。

事例を通して健康相談活動に必要な資質（表３）について分析・検討した。表８は始業式，表９は健康診断実施日の対応である。

表８　養護教諭としての対応

経過	養護教諭としての対応	必要な資質	評価
休み時間，保健室に来室	C　：先生、クラス発表ドキドキする。担任誰か楽しみ 筆者：楽しみだね C　：先生，担任の先生目が大きくて歌舞伎役者みたい，面白いし良い先生かも。 担任：前年度は，保健室によく行ってたみたいだね。まだ，始まったばかりだけど，頑張っているよ 筆者：そうなんですね。Cさんも新しい学級や担任との出会い楽しそうに話してましたよ	a，b，d，g，m a，b，d，g，m g，J，m	・何気ない会話の中から，子どもの現状を表情や態等から観察し，判断できていたと考える。 ・日頃からコミュニケーションを図り，信頼関係を築いていったことで，子どもから声を掛けてくれるようになったのではないか。 ・子どもの昨年度の状況から，担任との連携が必要と考え，コミュニケーションを図り信頼関係を築いたことにより，廊下ですれ違う際等，担任の方から話しかけていただける関係を築くことができていたと考える。

Cへの対応として，子どもをとりまく環境や実態等を含めた現状の把握(表３のa, b, d, g, m)と，関係性を築くための信頼関係の構築(表３の g, j, m)に努めた。その際気をつけたことは，言葉，コミュニケーション等，対応への配慮である。これらのことに対応できたのは，これまでの養護教諭の実践観察等の経験や，小児病棟での看護師としての経験的知識があったからだと考える。経験や知識がなければ，個々に対応した丁寧な健康相談活動は難しいと考察できる。

表９　課題解決実習での養護教諭としての対応

経過	養護教諭としての対応	必要な資質	評価
頭が痛いと来室	C　：頭が痛い。 筆者：熱測ってみよう。 C　：熱ない。 筆者：授業受けれそう。 C　：今日は無理。 筆者：じゃあ，１時間休もうか。 担任：保護者に連絡してみます。 母親が家に帰るとケロッとしているから帰さないでほしいと。保健室で休ませもらえますか。 筆者：頭痛はどう。熱測ってみよう。体温平熱 C　：まだ，無理。 筆者：そうなの。担任にも話しているからね。家に連絡するっていってたからね。 C　：頭は，大丈夫だけど，教室の棟に入るのがきつい 筆者：そうなんだ，教室の棟に入るのがきついんだ。座って話せる。 C　：大丈夫 筆者：頭は大丈夫なのね，じゃあどうするか一緒に考えよう。どうしたい。一緒に，教室までついていくから戻ってみる。それでもだめなら，また来てもいいから。 C　：じゃあ，行ってみてもいいよ。	a，　b，d，e，h f j，k b，　b，d，e，h i	・言動，身体症状，これまでの関わり，知り得た背景等から，心因性かと判断した。まずCが落ち着くことを考慮し，休養させ，担任と連携を取った。担任より，現時点で学級での友人関係は良好であることから，親子関係を示唆している現状があった。早めの対応・情報提供にて子どもの背景や情報を得ることができたのではないか。 ・保護者との関係性，家庭環境はどうなのか。保護者との連携も必要になってくると思われる。 ・2時間休養しているため，もう少し細かくカウンセリングし，対応することが必要。 ・状況判断を急ぐあまり，Cに寄り添い，話を傾聴し、ともに考えることができていない。 ・C自身に現状を整理し把握させるため，一緒に考える。また，教室への移動時のCの表情や会話からCの状況を把握する。この対応を実施することで今後の対応につながると考える。

Cの言動や身体症状，これまでの関わりと知り得た背景等から「いつもと違う」(表３のe) 心因性かと判断し休養させた。また，担任と連携した対応をとった方が良いと判断し，早い段階から担任（表３のｊ）へ情報を提供し，担任と連携した対応の実

践を行った。

これまでのCの状況や知り得た背景，養護教諭の保健室経営，担任からの情報（表３のｇ）等を考慮し対応した。限られた時間内で実践しようという思いがあり，Ｃの思いや訴えに寄り添い傾聴し，時間をかけて聞き取り判断して対応する（表３のｆ，ｇ，ｈ）ことに関しては，必要な資質を上手く活用することができなかった。子どもに寄り添った対応は資質の一つであり，養護教諭のカウンセリングは子どもの視点からも重要である。また，知識としてはわかっているものの実践に生かすことは難しい。特に限られた時間内での対応はカウンセリングの技法を身につけていく必要があり，技法は実践的経験に類似した知識と研修（事例検討やロールプレイ）が重要だと考える。また，Ｃのその時の現状のみで判断しており，友人関係や学級での様子，家庭環境及び親子関係といった背景を把握し支援していくことも大切であり，情報収集やそのための連携に必要な資質は健康相談活動では肝要である。連携（表３のｊ）については，関わってきた養護教諭の全てが必要な資質として挙げていた。しかし，Ｃへの学校現場で活用可能な解決策として①関係職員を含めた事例検討会の設定②実態などの情報や解決策をまとめた個別の支援計画（表３のｎ）の立案など連携に必要な対応までにいたることはできなかった。

継続・一貫した健康相談活動を進めていくためには，関係する教職員を調整する能力（コーディネート力やファシリテート力）は必要不可欠であり，事例検討会の企画や運営する力も必要であることが理解できる。

６．まとめ

沖縄県における健康相談活動に必要な資質について，健康相談活動の成り立ち，必要とされている資質，養護教諭の実践，養護教諭養成課程の授業内容から検討してきた。

養護教諭の資質は答申や学会に示されているが，本研究では，沖縄県の養護教諭として身につけておきたい資質を「ａ：心の問題と身体症状に関する知識理解，ｂ：心と体の観察力…」（表３）として提示し，健康相談活動に必要な資質を分析・検討していった。現職養護教諭の実践では，健康相談活動に必要な資質を子どもの実態に応じて使い分け問題の解決を図っていた。特に担任や保護者との連携に必要なコーディネート力や解決策を見いだすためのファシリテート力は実践するときには身につけておくべき項目としてあげられる。大野(2012)は「養護教諭養成校において，教育としてのコーディネート力の概説はできても実践化に結びつく力量をつけることは難しい。また，現場においては様々な学校保健があり研修の実施が今後重要である」と述べていることから，養護教諭養成校卒業後も研修が必要であることがわかる。

しかし，現職養護教諭のほとんどが健康相談活動に必要な資質は重要だと考えてはいるものの，対応は自己の経験で行っており、困難な事例は他の養護教諭等への相談で解決策を見いだしていた。これは県及び市町村で開催される研修内容等が現場の声を反映しておらず，必要な資質の向上に繋がっていないものであると考える。

沖縄県内の養護教諭養成大学においては，健康相談活動に必要な資質について重要だと考え学修をしていた。しかしながら実際の学校現場においては，学修した知識や技術がすぐに活用できるとは言いがたく，中でも，養成段階で学んだ知識に基づくコーディネート力・問題解決のための指導力・企画力・調整力等は，学校現場での実践にすぐに生かすことは難しかった。今野(2013)は「学習方法として，演習(ロールプレイ)や実習による学習体験を多く取り入れ，場面を設定して考えさせ，その考えを交流し検討し

ていくような多くの授業提供が必要とされる。また，理論に加え，実践的な対応力が身につけられるよう，演習での学びだけではなく，実習での学びが必要となる」と述べている。つまり，理論と実践を結びつける事例の検討を通して，個々の子どもの実態や求めに応じた健康相談活動の資質育成への工夫・改善が重要であると言える。さらに上述したことが，子どもが養護教諭に求めている寄り添い（傾聴，共感）を育成することにもつながり、子どもの問題の解決の早期発見や早期の対応になるものと考える。

現職養護教諭の研修内容については，健康相談活動に必要な資質を担保する継続的な研修を位置付ける必要がある。また，個々の事例に対応できるよう，事例検討会を定期的に研修会に設定し，困難な事例に対しては，即座に対応ができるようネットワークを構築していくことも必要不可欠である。

健康相談活動に必要な資質を体得していくには，以下のことが養護教諭養成課程さらに卒業後も必要になると考える。

・養護教諭養成課程
　事例に基づいたロールプレイングや事例検討会
　養護実習の工夫（保護者，校内，関係機関との連携等の見学実習）
・現職養護教諭の研修
　研修会に事例検討会を継続的に位置付ける
　ネットワークの構築
・行政機関
　養護教諭の資質の向上に必要な研修会への参加の定着，日程調整
　ネットワーク構築のための助言と機能

今後養護教諭として現場に勤めた場合には，健康相談活動における研修やネットワークの構築について声を上げていきたい。

文献

三木とみ子ほか（*et al*）（2011）.『養護概説』（株）ぎょうせい四訂，pp. 227.

力丸真智子ほか(*et al*)(2012).「養護教諭の『健康相談活動』に活かすヘルスアセスメントに関する研究」『学校保健研究』54(２)，pp. 162-169.

佐藤倫子・今野洋子・照井沙彩(2015).「養護教諭の健康相談・健康相談活動の実態から捉えた課題：小・中学校養護教諭対象の質問紙調査から」『日本健康相談活動学会誌』10（１），pp. 90-99.

宮川めぐみ（2015).「沖縄県の子どもたちと家庭の生活実態を踏まえた生徒指導：『家庭責任論』の検討」『子ども文化学科紀要』（２），pp. 17-25.

大野泰子(2012).「養護教諭の職務における求められる力量の形成－連携力からコーディネート力の構築へ－」『鈴鹿短期大学紀要』32，pp. 71-80.

今野洋子(2013).「健康相談・健康相談活動に必要な知識・技術」『人間福祉研究』16，pp. 89-96.